

1. 研究活動

<p>[デザインプロジェクト企画実施] 「土と人のデザインプロジェクト -ゼロから晩餐会をデザインする-」</p>	<p>2012. 7 ～12</p>	<p>名古屋芸術大学近隣地域 / 名古屋芸術大学デザイン学部</p>	<p>特別客員教授として招聘した服部滋樹氏と共に行った大学周辺の地域とのつながりを生み価値を顕在化させるプロジェクト。</p>
<p>[特別講演会企画実施] 「農・地域・協働 -デザインの新しいフィールドから」</p>	<p>2012. 12</p>	<p>名古屋音楽学校ホール / 名古屋芸術大学デザイン学部</p>	<p>服部滋樹氏、紫牟田伸子氏を招き、農・地域・協働をキーワードに今後のデザイン対象について考察する講演会を企画実施。</p>
<p>[展覧会企画実施] 「土と人のデザインプロジェクト展」</p>	<p>2012. 12</p>	<p>アートラボあいち / 名古屋芸術大学デザイン学部</p>	<p>「土と人のデザインプロジェクト -ゼロから晩餐会をデザインする」で行った取り組みをドキュメント形式で展示</p>
<p>[レクチャー・トーク] 「designVision1989, around1989 から現代のデザインを考える」</p>	<p>2012. 11</p>	<p>名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」【designVision1989年頃のデザイン】展</p>	<p>1989年周辺から現代に至るまでの象徴的なデザインを振り返り時代を考察した。</p>
<p>[研究発表] 「コミュニティのためのデザイン活動」</p>	<p>2012. 2</p>	<p>名古屋大学メディア研究会</p>	<p>コミュニティ・デザインの現状と社会的背景、またそれに関係するデザイン動向や思考について発表。</p>
<p>[テキスト] 「デザインのもつ Visioning のちから」</p>	<p>2013. 3</p>	<p>名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」アニュアル</p>	<p>【designVision1989年頃のデザイン】展に関連して、「No Sign of Design Chair」を題材とした時代とデザイナーとの関係についての考察。</p>
<p>[基礎研究] 「国内外におけるデザインファンデーション教育の実態調査・検証、及びその将来的展望に関する研究」</p>	<p>2012. 4～</p>	<p>名古屋芸術大学デザイン学部</p>	<p>文献研究に加え、国内でデザインファンデーション教育プログラムを持つ大学へのインタビュー調査を実施。共同研究。</p>

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 デザイン理論		多様な学問領域と重なりながら広がるデザイン理論を様々な角度から捉えられるよう、近代デザイン思想、経験、テクノロジー、エコロジー、認知・行動、コミュニケーション、文化形成など、それぞれ異なったテーマを立て、それらに沿って具体的な理論や事例を交え解説した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>授業の最後にその時間の内容と関連するテーマでミニレポートを書く時間を作り、書きながら考える体験を積み重ねられるようにした。また、授業最初には前回のミニレポートの中から数点を紹介しながら、関連する視点や事柄についてさらに解説を加えることを繰り返し行った。</p> <p>また、新たに「経済とデザイン」という授業回を加え、より広くデザインと経済との関係を考える機会を設けた。</p>	<p>難解な理論もできるだけ身近に感じられるよう、画像を多く使ったスライドを毎回用意し、新たに映像資料も講義に加えた。興味を持った理論を学生自身が引き続き探求できるよう、授業で扱ったテーマごとの参考書籍リストを作成した。</p>	
授業科目 コミュニケーション論		前半の授業では、コミュニケーションの基礎理論を扱い、根本的なところからコミュニケーションとは何かを考察し、コミュニケーションデザインへのより深い理解へと繋げた。授業の後半では、そのコミュニケーションデザインをどのように地域コミュニティのために活用することができるのか、社会的背景や具体的な事例を通じて解説した。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>できるだけ最新の具体的事例を使い、コミュニケーションや地域に関わるデザインについて理解を深められるようにした。</p> <p>また、新たに3回の授業回を使い、視覚化の概要と歴史、その手法、視覚化の現在について解説する回を設け、デザインや美術とコミュニケーションの関わりをより身近に感じられるようにした。</p>	<p>授業内容が身近に感じられるよう、画像中心のスライドを毎回用意した。加えて、効果的に映像資料も使用した。特に現在進行形で行われている事例については刷新し、各授業回に加えた。</p>	
授業科目 デザイン概論		デザイン学部1年生を対象にした本講座では、「デザイン」に対するより広い視野を獲得することを目的とした。加えて1年次の基礎授業が2年次以降の専門性とどのように繋がっているのか意識的に理解し、2年次以降のより具体的な進路選択に活かすことも意識させた。講座の後半では、オープンディスカッションや先輩によるトークも交えて展開した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
<p>受講生が毎回レポートで各授業を振り返る機会を設けたことに加え、初回授業ではレポートの書き方について解説を加えた。またオープンディスカッションの授業回を設定し、直接受講生の考えを全員で共有できる時間をつくった。また、各コースとは直接結びつかない領域とデザインとの繋がりについて学ぶ特別回も用意し、よりデザインを幅広く考える機会をつくった。</p>		

授業科目 デザイン基礎演習 B-2		デザインとは何であるのか意識的に思考を広げるトレーニングのため、デザインをよみ、かくという一連の作業を行った。それらを通じて狭義のデザイン観や既成概念から脱し、より広い文脈の中でデザインを捉えその意義と魅力に触れる授業展開をした。また調査や分析からアイデアを展開し、そのアイデアを言語化し的確に表現する、といった基礎的なデザインのリテラシーを習得することを目標とした。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
「デザインのよみかき」と題してデザインを学ぶにあたり知っておきたい「かたち」「文化的背景」「モノの使用」の基礎についてひとつずつ学べるよう、前半ではそれぞれテーマについて理解する授業回「よむ」の後にそれらについての視点をまとめ表現する「かく」の授業回を重ねる授業構成とした。後半ではそれぞれの基本を理解した上で最終的に自分の関心から選んだテーマについてリサーチをし、表現としてまとめることで理解を定着させられるようにした。	それぞれのテーマ毎に理解を助けるための内容をまとめた資料を作成した。またよりスムーズに作業が進められるよう、テーマ毎にワークシートを用意した。加えて、適宜スライド資料を作成しより良い理解へつなげた。	
授業科目 立体造形（回転体による成型実習）		デザイン学部一年次で実施するファンデーション（基礎実技）の専任として、課題内容、配布物、スケジューリングやスタッフィング、学生へのオリエンテーション等、総合的な視点からファンデーション管理運営に関わった。基礎実技の改定に向けた検討も同時に行った。 また、新たに前後期にそれぞれ一回ずつ、グループワークでのワンデーワークショップの機会を設け、それぞれの回で新たな側面や方法を学ぶことのできる機会を設けた。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、観察からイメージスケッチ、図面から回転体制作までのそれぞれの工程がどのような意味をもつのか理解できるよう指導した。	特に、観察からどのようにオリジナルの形態へとつなげられるか、例を示しながら解説した。また、各工程での注意点を具体的にデモンストレーションを通じて示した。	
授業科目 デザイン実技 I (F1) - あなたの素材観（感）		
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、自分独自の視点で編集できるよう面談を通じて学生の興味や視点を具体的に掘り起こす指導をした。	過去の参考作品を効果的に使いながら、どのように観察し、編集するのか実例を通じて指導した。また、基本的な製本についての理解を助ける資料を用意した。	
授業科目 デザイン実技 I (F2) - 明かりのデザイン・私の店		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、デザインアイデアをより質の高いものへ発展させられるよう、使用者や使用場所の特性に意識を向けるよう指導した。	最終的な作品制作の前段階としての、スケッチでのアイデア展開では、具体的な事例を例示しながら出来るだけ広くアイデアが広げられるようにした。	

授業科目 デザイン実技I (F3) - 廃品による素材体験		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、手触りや素材の特性について意識的に関心が向けられるよう助言を行った。また、立体構成に苦手意識を感じている学生に対しては平面的な作業との共通点についても目が向けられるよう指導した。	毎回授業で使用するワークシートで自分の制作を丁寧に振り返る時間をつくった。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ -1 (LS)		
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
特定のフィールドを設定して、丹念にフィールドワークを繰り返すことによって環境の特性を読み解き、より本質的な視点を得るための方法を体験させた。また、フィールドワークを通じて見いだした視点を他者に伝わる表現として編集することを求め、またそこから更にグループワークを経て具体的なデザイン提案へと展開するという一連のプロセスを踏めるような授業構成とした。また、授業の前半と課題講評時に人類学を専門とする講師を招き、人類学的フィールドワークの視点も授業に取り込んだ。	デザインリサーチのためのフィールドワーク手順を簡潔にまとめた資料や、プレスト、シャッフル・ディスカッション、KJ法、ペルソナ手法、シナリオ手法などコンセプト立案のための手法をまとめた教材を用意した。また、課題書は授業の前後半のそれぞれの段階で学生が理解しやすいよう2つに分けて用意した。また、各課題で、作品アイデアを整理するためのワークシートを作成した。	実際の都市環境をフィールドとして読み取り、Atlas: 地図帳を制作するという課題を通じて、フィールドワークを中心とした多様なリサーチ手法の習得と同時に、環境をより深い視点から分析し、その視点を編集し表示する方法を学ぶ。リサーチによって得られた視点と具体的なデザイン提案との間との関係を実際の提案作成作業を通じて意識化させた。
授業科目 デザイン実技Ⅱ -3 (LS)		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
関連した二つの課題によって行った。課題「If」では、普段見慣れたモノに、ある「仮定」を設定した上でどのようにその形態を変化させることができるのか発想し、条件と形態との関連について意識的に考える機会をつくった。課題「可能性発見からのデザイン」では、モノの「可能性: 意図されていない使われ方」に目を向け、モノと使用者との関係について意識的に考える機会をつくった。それら2つの課題によってモノをとりまく諸相についてより分析的に捉えられるよう指導した。	それぞれの課題では導入となるワークショップを用意してよりスムーズに課題に取り組めるようにした。また、If課題では具体的な仮定ストーリーを用意しより実感を伴ったデザイン発想へとつなげられるようにした。また、課題書は、課題を通じて何を理解し、どのような視点を得ることが期待されるか明確に記したものを用意した。	課題「If」では、身近なモノをとりまく「条件」を変化させることによって、どのようにその形態が変化するのか想像し、モノの形態が様々な関係性の上に成立していることを理解させた。課題「可能性発見からのデザイン」では、使用者によるモノの使用を分析し、その気付きからの制作を体験させた。それによって、環境や認知・行動に対する洞察力を伴った、環境やモノのもつ「可能性」からのデザイン発想の理解へとつなげた。

### 3. 学会等および社会における主な活動

基礎デザイン学会	2010～	研究会参加等
日本デザイン学会	2011～	研究会参加等
メタデザイン研究会 (Metadesigners Network Japan)	2008～	研究会、ワークショップ等主催
名古屋大学メディア研究会	2012～	研究会幹事 研究発表 / 研究会等参加
科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 「大学における『アート・リソース』の活用に関する基礎的研究」 「アート・リソース活用のためのサイネージ研究会」	2012. 2	ラウンドテーブル「デジタルサイネージ・美術館・身体の実験」への参加